

日本新産の帰化植物クシバツメクサ（マメ科）

勝山輝男・松本雅人・秋山幸也

Teruo Katsuyama, Masato Matsumoto and Koya Akiyama:

Trifolium angulatum Waldst. & Kit. (Fabaceae), Newly Naturalized in Japan

横浜市瀬谷区の畑地でマメ科シャジクソウ属 (*Trifolium* L.) の見慣れない植物 (図1) が採集された。帰化によるものと考え、海外の文献にあたってみた。その結果、Coombe (1968) や Zohary & Heller (1984) の記述により、東ヨーロッパに分布し、中部ヨーロッパに帰化している *Trifolium angulatum* Waldst. & Kit., Pl. Rar. Hung., 1: 26 (1800) と判明した。葉の縁に櫛の歯状に鋭い鋸歯があるので、和名をクシバツメクサと新称し、日本新産の帰化植物として報告する。1 個体のみの一時的な記録であるが、日本への最初の侵入として記録にとどめたい。

日本在来種のシャジクソウ属はシャジクソウ *T. lupinaster* L. 1 種のみであるが、太刀掛 (1998) によると種ランクで18種の帰化が記録されている。なかにはシロツメクサ、ムラサキツメクサ、タチオランダゲンゲのように牧草として用いられ、日本国内に広く帰化しているものもある。今回、クシバツメクサが採集された一帯には、カミツレ、イヌカミツレ、オロシャギク、カミツレモドキ、キゾメカミツレ、ナタネタビラコ、アレチキンギョソウ、セイヨウオオバコなどヨーロッパ大陸原産の帰化植物が多く見られる。製粉かすが撒かれた畑もあり、輸入小麦に種子が混入して持ち込まれた可能性が高い。以下に採集された標本に基づくクシバツメクサの特徴を記す。

1 年草。高さ約10cm。全体に無毛。下方の葉は長さ2~3cmの柄があり、上部のものではしだいに柄が短くなる。托葉は卵

形または披針形で、先は長く尖り、全縁。小葉は3個で、倒卵形、長さ5~8mm、幅3~6mm、縁には櫛の歯状の鋭い鋸歯があり、側脈は先の方が太くなり、鋸歯に入る。花序は葉腋または枝先につき、1~2cmの柄があり、直径約1cm、多数の花をつける。各花には長さ1mm以下の小さな苞がある。小花柄は花時には萼と同長またはやや短く、花後には長さ4~5mmに伸長して、下向きに反り返る (図1-B)。萼は筒部の長さが約1.5mm、10脈があり、萼歯は5個で、針状に尖り、長さ約3mm。花冠は淡紅色で、萼よりも長く、長さ7~8mm。豆果は長楕円形で無毛、3種子を入れる。

標本： 横浜市瀬谷区上瀬谷 Sep.20, 1999 松本雅人 KPM-NA0116633.



図1. クシバツメクサ *Trifolium angulatum* A: 植物体, B: 果序 (最小目盛りは1mm).

引用文献

- Coombe D. E., 1968. *Trifolium*, In Tutin T. G. *et al.* eds.,
Flora Europaea, Vol. 2., pp. 157-172. Cambridge
University Press, London.
- 太刀掛優, 1998. 帰化植物便覧. 306 pp. 比婆科学振興会,
広島.
- Zohary M. & D. Heller, 1984. The Genus *Trifolium*. x+606 pp.
The Israel Academy of Sciences and Humanities,
Jerusalem.

(勝山：神奈川県立生命の星・地球博物館，松本：
神奈川県植物誌調査会，秋山：相模原市立博物館)